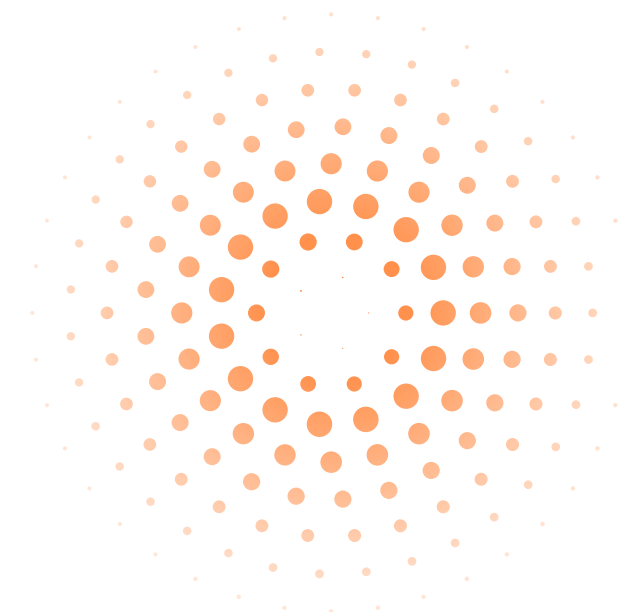


栗山高等学校 1年 「栗山と福祉」



移動をたすける福祉用具の体験

担当：栗山町立 北海道介護福祉学校
藤田 ・ 奈良岡

令和8年 2月9日(月)

生徒氏名

本日のねらい

1

福祉用具は、誰の、何のためのものかを考えてみる

2

体験を通して、使う人にとってどのような
目的や効果があるのかを考えてみよう



3

これから私たちが出来ることは何かを考えてみよう

福祉用具とは

- ・福祉用具の研究開発及び普及の促進に関する法律（平成13年）

（定義） 第二条

「心身の機能が低下し、日常生活を営むのに支障のある老人又は障害者の**日常生活上の便宜を図るため**の用具及びこれらの者の機能訓練のための用具並びに補装具をいう」

モジュール型車イス(最新型)

【状態像】

長時間の歩行が困難な方、円背の方

【使用すべき場面】

移動が必要なとき

【効果】

自分に合うように調節できるので、長時間安定して車イスに乗ることができ、外出先が増え行動範囲を広げる支援につながる



リクライニング車イス

【状態像】

全介助の方、血圧変動がある方

【使用すべき場面】

移動が必要なとき

【効果】

フラットな状態にできるので、ベッド上で寝たきりの方でも
車イスを使用することで離床し、安楽に移動できる



電動車イス

【状態像】

腕や手の力が弱く、自分で車いすをこぐのが難しい人
長距離の移動に疲れてしまう人

【使用すべき場面】

外出や通院、買い物など、**自分で移動したいとき**

【効果】

電動で操作できるので、少ない力で移動でき、行動範囲が広がる
より自立した生活をサポートできる



交互型歩行器

【状態像】

筋力が弱くなり、体のバランスを取るのが難しいが
支えがあれば自分の力で歩ける方

【使用すべき場面】

室内で安定して歩きたいとき

【効果】

左右交互に動かせるので、自然な歩き方に近づけることができ、転倒の
予防や歩行のリハビリにもつながる



室内用歩行器

【状態像】

独歩での歩行は困難だが、掴まりながら歩行できる方

【使用すべき場面】

室内での移動が必要なとき

【効果】

軽く、小回りが利くので転ぶ危険を少なくできる。

歩くことで日常生活動作の維持・向上が図れる



多機能型歩行車

【状態像】

独歩での歩行は困難だが、掴まりながら歩行できる方

【使用すべき場面】

室内、外での移動が必要なとき

【効果】

歩行車を活用することで行動範囲を広げる支援につなげることができ、
日常生活動作の維持・向上が図れる



電動アシスト歩行車

【状態像】

足腰が弱く、坂道や長距離の歩行に不安がある人
歩くとすぐに疲れてしまう人

【使用すべき場面】

外出時や坂道・長距離の移動が必要なとき

【効果】

モーターの力で歩行をサポートしてくれるので、疲れにくく、安心して外出できる。転倒の予防や自立した生活の維持・拡大にもつながる



見学・体験から気づいたことを教えてください

● ————— ●

● ————— ●

● ————— ●

● ————— ●

● ————— ●

● ————— ●

● ————— ●